

双方向通信を活用したビブリオバトル

日高川町立 川原河小・笠松小・寒川第一小（5・6年）・美山中学校（2年）

- 1 美山4校（川原河小学校、笠松小学校、寒川第一小学校、美山中学校）の抱える課題
 - （1）児童生徒の減少により、多様な考えに触れ、思考を深める機会が少ない。
 - （2）学校間の物理的な隔たり（道のり、交通手段等）が大きく、集合学習の実施回数を増やすことが難しい。
- 2 課題解決のための手立て
 - （1）3年前に集合学習の取組を補完するために始まった遠隔合同学習テレビ会議システム（双方向通信）を活用した集合学習（3小学校）に中学校も参加する。
 - （2）学校図書館の活用を推進するための取組の一環として双方向通信を活用したビブリオバトルを行い、他校の児童生徒と多様な意見を交流する。
- 3 遠隔合同学習テレビ会議システム（双方向通信）を活用した集合学習での取組（3小学校）
 - （1）低・中・高学年に分かれて、定期的を実施する交流学习（10分～15分程度）
 - （2）成果物（調べ学習、作文、新聞等）の発表と意見交流
 - （3）おすすめの本の読み聞かせ、その発表に対する感想、アドバイス等の交流
 - （4）生活、道徳、総合的な学習の時間、外国語等の合同授業
 - （5）6年生と中学生の交流会（年1回）



低学年 アニマシオン
読書クイズ



中学年 ブックトーク
感想を発表する児童



高学年 道徳科 合同授業

- 4 ビブリオバトルの取組
 - （1）美山中学校で取り組まれているビブリオバトルの映像を各小学校で視聴し、ビブリオバトルの流れや雰囲気をつかませる。
 - （2）各小学校において図書館等の書籍から、テーマとする本を選び、各校で予選を行う。
 - （3）各小学校で選ばれた代表者が遠隔合同学習テレビ会議システムを活用し、ビブリオバトルを行い、チャンプ本を決める。（中学生も審査員及びアドバイザーとして参加する。）
- 5 事前の確認事項
 - （1）授業の流れや役割の確認
 - （2）通信機器の確認
 - （3）児童生徒席、発表者位置、テレビ、カメラ、マイク等の配置調整
（光の具合や構図、写ったときの構図等）
 - （4）カメラワークの確認
 - （5）当日の流れを4校で確認する。

6 当日の展開について

時間	学 習 活 動	◇指導上の留意点	☆支援
3分	1 めあてと本時の流れを確認する。		
	ビブリオバトルで本のおすすめを伝え合い、読みたい1冊を決めよう。		
30分	2 スピーチと質疑応答をする。 ・開会宣言をする。 ・3分で発表する。 ・2分で質疑応答を行う。 ・計5人発表する。	◇ビブリオバトルの注意点を提示する。 ◇タイマーで残り時間を表示する。 ☆メモを手元に置いておき、忘れてしまったときは見られるようにする。	
5分	3 チャンプ本を決める。	◇発表者も、自分以外の発表者に投票する。 ◇優勝の児童には賞状を贈呈する。	
5分	4 感想や意見を出し合う。	◇経験のある中学生の視点から、良かったところや、さらに良くするためのアドバイス等を交流する。	
2分	5 まとめを行う。		

7 成果と課題

今まで、小学校間で合同学習に取り組んできたが、今回は、毎年ビブリオバトルに取り組んできた中学生の映像を視聴後に実施した。発表後、実際に中学生からの感想やアドバイスを聞くことで、学習の成果や課題、これからの方向性を知り自信をつけることができた。また、美山中学校の取組であるビブリオバトルを小学校でも取り組んだことで、6年生は中学校生活への理解と見通しをもつきっかけとなるなど、小中の連携にもつなげることができた。

今後、取組を継続・深化させていくにあたって、カメラやマイク、発表者の位置をパターン化することや、子供たちから出た多様な意見が見える化し、交流を活発にする工夫等が必要であると感じた。

今回の取組では、週1回取り組んでいたテレビ会議システムを利用した集合学習の経験が生かされた。双方向通信を活用した授業を展開するためには、児童生徒及び教員が機器の操作を含め、その授業の流れに慣れていることが重要である。今後、GIGA スクール構想により1人1台のタブレット端末が配備されるので、授業内において交流する時間（例；授業の終わり10分等）をとる機会を作ることが可能になる。今回の経験を生かし、小規模校においても多様な考えに触れ、自分の考えを発信することができるよう、タブレット端末を活用した取組を研究していきたい。



3小学校の児童と
中学校の生徒



画面上の児童・生徒に向か
ってスピーチをする様子



画面を通し、スピーチを
聞く様子